

地域と取り組むSDGs

専修大学熊本玉名高等学校

(玉名市岱明町野口)

1 事業者の紹介（事業内容・沿革）

昭和24年に玉名市高瀬に玉名英学院として創立された。普通科、国際ビジネス科、情報メディア科からなり、西日本で唯一の専修大学の附属高校である。2022年1月、高校では初めてSDGs事業者として認定された。

2 取組の内容

①学校周辺の清掃活動を地域住民ともにおこなっている。活動後はゴミマップをつくり、市役所に報告している。②3年生の使わなくなった体育館シューズを回収し、発展途上国の人々が靴を履くことができるように支援している。③各教室や玉名市文化センターにペットボトルのキャップ回収箱を設置し、回収したペットボトルのキャップはワクチン代となっている。

3 取組のきっかけ・経緯

地域に根差した高校を目指している本校は、これまで行ってきた数々の取り組みをSDGs達成のために地域住民とともに取り組みたいと考えたのがきっかけである。

4 取組の効果

清掃活動後の振り返りを通して、通学路に落ちているごみを自ら拾う生徒が出てきた。体育館シューズの回収やペットボトルのキャップ回収は、リサイクルの促進、CO₂の削減、発展途上国の支援につながっている。さらにペットボトルのキャップ回収は、発展途上国の医療に貢献している。生徒は自分にできる身近なSDGsを実践するようになった。地域との連携も深まっている。

5 今後の展望

現在行っている活動を継続し、近隣の小・中学校、高校、大学とも連携をはかり、地域とともにSDGs達成に向けて寄与する。

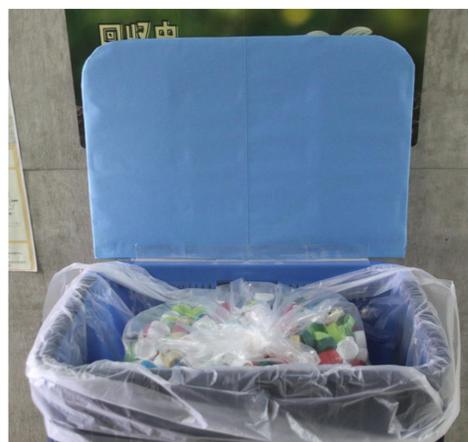
該当する目標



クリーン作戦の様子（上野口区の方々と）



体育館シューズの回収



エコキャップ回収運動